

ブドウ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ベ ト 病	灰 色 か び 病	褐 斑 病	黒 と う 病	苦 腐 病	晩 腐 病	さ び 病	芽 枯 病	白 紋 羽 病	つ る 割 病	う ど ん こ 病	白 腐 病	枝 膨 病	す す 点 病	ゆ 合 促 進
I Cボルドー66DFL	M1		-	-	◎			◎		◎	◎								
Zボルドー水	M1		-	-	◎		◎				◎								
クプロシールドFL	M1		-	-	◎														
コサイド3000DF	M1		-	-	◎						◎								
インプレッションクリア水	BM2		*i	-	◎														
エコショット顆水	BM2		1	-	◎										◎				
ボトキラー水	BM2		*i	-	◎														
ミギワ20FL	52		1	3	◎	◎	◎		◎										
トップジンM水㊦	1		45	1	◎	◎	◎	◎	◎		◎				◎				
トップジンMペースト	1		*L *b	3						◎				◎					◎
ベンレート水㊧	1		45 *d	3 1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎		◎		
アフエットFL	7		7	3	◎	◎	◎		◎	◎				◎					
カナメFL	7	劇	1	3	◎	◎	◎			◎				◎					
カンタスDF	7		7	3	大													大	
ケンジャFL	7		7	3	◎	◎	◎							◎					
バシタック水75	7		45	1						◎									
パレード15FL	7		7	2	◎	◎	◎			◎				◎					
フルーツセイバーFL	7		7	3	◎	◎	◎		◎	◎				◎					
アミスター10FL	11		30	3	◎	◎	◎	◎	◎	◎							◎		
スクレアFL	11		1	3	◎		◎		◎					◎					
ストロビーDF	11		14	3	◎	◎	◎	◎	◎	◎				◎		◎			
ファンタジスタ顆水	11		14	3	◎		◎		◎	◎									
フリントFL25	11		*d	1			◎		◎										
オラクル顆水	21		14	3	◎														
ライメイFL	21		14	3	◎														
ランマンFL	21		14	3	◎														
フロンサイドSC	29		*a 21	1 1	◎	◎	◎		◎								◎		
フルピカFL	9		30	2	◎									◎					

ブ
ド
ウ

ブドウ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日 数)	使 用 回 数	ベ ロ 病	灰 色 か び 病	褐 斑 病	黒 と う 病	苦 腐 病	晩 腐 病	さ び 病	芽 枯 病	白 紋 羽 病	つ る 割 病	う ど ん こ 病	白 腐 病	枝 膨 病	す 点 病	ゆ 合 促 進
セイビアーFL20	12		21	3	◎					◎						◎			
ロブラール水	2		*h	3	◎		◎									◎			
フジワン粒	6		*e	1								◎							
インダーFL	3		30	3	◎	◎	◎								◎				
オーシャイン水	3		7 30	2	◎		◎					◎			◎				
オーシャインFL	3		7	2	◎	◎	◎								◎				
オンリーワンFL	3		1	3	◎	◎	◎		◎	◎					◎	◎		◎	
トリフミン水	3		7	3		◎	◎								◎				
マネージDF	3		21	3			◎			◎					◎				
パスワード顆水	17		14	2	◎											◎			
ピクシオDF	17		1	3	◎														
ポリオキシシNAL水	19		60	5	◎														
ポリオキシシNAL溶	19		60	5	◎		◎								◎				
フェスティバル水	40		45 30	2 2	小 大														
レーバスFL	40		7	3	◎														
アリエッティ水	P7		30	3	◎														
キノンドーFL	M1		45	*o	◎		◎										◎		
ドキリンFL	M1		45	*o	◎		◎										◎		
ジマンダイセン水	M3		45	2	◎		◎	◎		◎	◎								
チオノックFL	M3		60	2	◎	◎	◎	◎		◎									
トレノックスFL	M3		60	2	◎	◎	◎	◎		◎									
ペンコゼブ水	M3		45	2	◎		◎	◎		◎	◎								
オーソサイド水80	M4		30	3	◎	◎	◎	◎		◎							◎		
バスポート顆水	M5		*d	1			◎		◎										
デランFL	M9	劇	*c *d	2 1	◎		◎		◎					◎			◎		
スイッチ顆水	9・12		30	2	◎					◎									

ブ
ド
ウ

ブドウ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	ベロ病	灰色かび病	褐斑病	黒とう病	苦腐病	晩腐病	さび病	芽枯病	白紋羽病	つる割病	うどんこ病	白腐病	枝膨病	すす点病	ゆめ進
テーク水	3・M3		45	2	◎	◎		◎		◎					◎				
ナリアWDG	7・11		7	3						大									
ジャストフィットFL	43・40		30	3	◎														
フォリオゴールドFL	4・M5		60	2	◎														
ゲッター水㊟	1・10		45	1		◎													
ラビライト水㊟	1・M3	*c	1							◎									
リドミルゴールドMZ顆水	4・M3		45	2	◎														
ホームイコート水㊟	1・M3	*d	1				◎		◎			◎				◎			
ホライズンDF	11・27		21	3	◎		◎	◎		◎									
フェスティバルC水	40・M1		45 30	2 2	小 大														
カーゼートPZ水	27・M3		45	2	◎														
カンパネラ水 ベネセット水	40・M3		45	2	◎			◎		◎									
ゾーバックエニベル顆水	49・M3		45	2	◎					◎									
フェスティバルM水	40・M3		45	2	◎														
ビオネクトFL	M1- 45		*k 45	*o	◎			◎		◎			◎				◎		
アリエッティC水	P7・M4		30	3	◎	◎		◎		◎									
ザンプロDMFL	45・40		45 30	2 2	小 大														
ダイナモ顆水	21・27		21	3	◎														
ダイパワー水	M4・M7		60	2	◎			◎		◎									
ドーシャスFL	21・M5		60	3	◎			◎		◎									
バトファイター顆水	40・27		30	3	◎														

㊟：チオファネートメチル含有剤 ◎：ベノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作での◎は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く)。*a:開花直前～落弁期(但し収穫60日前まで) *b:休眠期(萌芽前) *c:落弁期まで(但し収穫75日前まで) *d:休眠期 *e:萌芽期まで *h:開花期～幼果期(但し収穫60日前まで) *i:発病前～発病初期 *k:休眠期～開花前 *l:剪定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後 *o:4回以内(但し開花後は1回以内)
小:小粒種(デラウェア、シラガブドウ、やまぶどう)
大:大粒種(巨峰系4倍体品種、2倍体米国系品種、2倍体欧州系品種、3倍体品種他)

ブ
ド
ウ

ブドウ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使用 時期 (回数)	使用 回数	ブ ド ウ 種 別	ア ザ ミ ウ マ シ 類	ア ブ ラ ム シ 類	フ タ テ ン ヒ メ ヨ コ バ イ	ミ ド リ ヒ メ ヨ コ バ イ	カ イ ガ ラ ム シ 類	カ メ モ シ リ ガ 類	コ ウ モ シ リ ガ 類	ブ ド ウ ト リ バ ウ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	ハ マ キ ム シ 類	ケ ム シ 類	キ ン ケ ク チ ブ ト ゾ ウ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類	カ ミ キ リ ム シ 類	ハ ミ ダ ニ 類	サ ビ ダ ニ 類	そ の 他 害 虫
コロマイト水	6		7	2																◎		
クムラス顆水	UN		*c	1																ハ		
サンクリスタル乳	—		1	—																◎		
オリオン水40	1A	劇	45	1		◎				◎						も	◎					
サッチューコートS乳	1B		*b	2																ラ		
スミチオン水40	1B		21	2	大			◎		ク		ス						成	成	ブ		ア
スミチオン乳	1B		21	2	大	◎	◎	◎	◎	ク		ス	◎	◎	◎		成		成	ブ		ア
ダイアジノン水34	1B	劇	30	2	大	◎		◎		ク						◎						
マラソン乳	1B		7	6		◎		◎		◎						◎		成		◎		
アーデントFL	3A		1	4		◎		◎											◎	◎		
アグロスリン水	3A	劇	21	5	大	チ		◎											◎			
アディオンFL	3A		7	5	大	チ		◎											◎			
アディオン水	3A		7	5	大	チ		◎								メ			◎			
スカウトFL	3A	劇	7	3	大	チ		◎							◎			成				
テルスターFL	3A	劇	14	1	大	チ																
テルスター水	3A		14	1	大	チ																
バイスロイドEW	3A	劇	7	2	大	チ													◎			
ロディー水	3A	劇	21	2	大	チ																
ロビンフッドエアゾル	3A		1	5							◎	◎							◎			
アクタラ顆溶	4A		7	2	大	チ		◎		コ												
アドマイヤー顆水	4A	劇	*h	2		◎		◎		コ												
アルバリン顆溶	4A		1	3	大	チ		◎		コ	◎								ブ			
スタークル顆溶	4A		*e	1	大	チ				コ			ビ									
ダントツ溶	4A		1	3	大	チ		◎		コ	◎								◎	ブ		
バリアード顆水	4A	劇	21	2	大	チ				コ												
ベストガード溶	4A		30	3	大	チ		◎		コ												
モスピラン顆溶	4A	劇	14	3	大	チ		◎		◎	ツ								成	ブ		ト
モスピラン粒	4A		14	3	大	チ			ネ													
トランスフォームFL	4C		3	3	大	チ		◎		◎												
ディアナWDG	5		1	2	大	チ		◎				ビ		◎	◎							
デリゲートWDG	5		1	2	大	チ		◎				ビ		◎	◎							
コルト顆水*	9B		1	3	大	チ				◎	ツ											
ニッソラン水	10A		7	1	大	チ														◎		
バロックFL	10B		7	1	大	チ														◎		
オマイト水	12C		14	1	大	チ														カ		カ
コテツFL	13	劇	60	2	大	チ		◎						◎	◎			◎		ナ		ノ
パダナSG溶	14	劇	21	5	大	チ		◎			◎											
カスケード乳	15		30	2	大	チ								◎								

ブ
ド
ウ

ブドウ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	ブドウ	アザミウマ	アブラムシ	フタテンヒメヨコバ	ミドリヒメヨコバ	カイガラムシ	カメムシ	コウモリ	ブドウトリ	ハスモンヨトウ	ハマキムシ	ケムシ	キンケクチブトゾウムシ	コガネムシ	カミキリムシ	ハダニ	サビダニ	その他害虫
アブロードFL	16		30	2				幼	幼													
ロムダンFL	18		1	2												◎						
カネマイトFL	20B		14	1															◎			
マイトコーネFL	20D		21	1															◎			サ
サンマイト水	21A	劇	90	1	チ		◎															◎
ダニトロンFL	21A		30	1																		◎
ピラニカ水	21A	劇	30	1	大																	◎
ダニゲッターFL	23	*f	1																			◎
モベントFL	23		7	3		◎				◎												◎
スターマイトFL	25A		14	1																		◎
ダニサラバFL	25A		1	2																		◎
ダニオーテFL	25B		1	1																		◎
ダニコングFL	25B		1	1																		◎
エクシレルS E	28		1	3		◎						ビ		◎			◎					
サムコルFL10	28		1	3								ビ		◎	◎	◎						モ
テッパン液	28		1	2	チ						◎	ビ			◎	◎	◎					
フェニックスFL	28		14	2								◎		◎	◎	◎						ホ
ヨーバルFL	28	*g	7	2	チ							ビ			◎			◎				モ
ウララDF	29	*d	2	2	チ						ツ											ツ
グレーシアFL	30		7	2	チ		◎							◎								サ
トラサイドA乳	1B・1B	*c	2	2																	ブ	
ミネクトエクストラSC	15・28		1	3	チ																	
アブロードエースFL	16・21A		30	1									◎									ハ

*: 幼果期以降に使用する場合、果粉の溶脱を生じるおそれがあるので注意する。

*a: 収穫後秋期 *b: 収穫後(10月)～萌芽前 *c: 発芽前(休眠期) *d: 開花前まで

*e: 幼果期まで(但し収穫30日前まで) *f: 果実肥大期(大豆大期)～収穫前日 *g: 開花期まで

*h: 収穫21日前まで(但し露地栽培については発芽期から開花期を除く)

ア: アカガネサルハムシ カ: カンザワハダニ ク: クワコナカイガラムシ

く: クワコナカイガラムシ若齢幼虫 コ: コナカイガラムシ類 サ: ブドウサビダニ

さ: ブドウサビダニ及びブドウハモグリダニ ス: ブドウスカシバ

チ: チャノキイロアザミウマ ツ: ツマグロアオカスミカメ ト: トビイロトラガ

ナ: ナミハダニ及びカンザワハダニ ネ: ブドウネアブラムシ

ノ: ミノガ類、モンキクロナメイガ及びトビイロイラガ ハ: ブドウハモグリダニ

ヒ: ブドウヒメハダニ ビ: クビアカスカシバ ブ: ブドウトラカミキリ

ホ: ミノガ類、ホソオビツチイロノメイガ及びモンキクロナメイガ

ミ: ミカンキイロアザミウマ及びチャノキイロアザミウマ メ: アメリカシロヒトリ

モ: モンキクロナメイガ も: チャノコカクモンハマキ ラ: トラカミキリムシ

幼: 幼虫 成: 成虫 小: 小粒種(デラウェア、シラガブドウ、やまぶどう)

大: 大粒種(巨峰系4倍体品種、2倍体米国系品種、2倍体欧州系品種、3倍体品種他)

ブ
ド
ウ

ブドウ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	4月下旬～ 9月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・落葉は集め処分する。 ・次の薬剤のいずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 400～800倍 ジマンダイセン水和剤 1000倍 ホライズンドライフロアブル● 2500～5000倍 ランマンフロアブル● 1000～2000倍 リドミルゴールド MZ顆粒水和剤● 1000倍 	<p>春と秋にてやすい。 ヨーロッパ系の品種は発病しやすい。 前年発生した園は開花前から予防散布する。</p> <p>●耐性菌を生じやすいので連用しない。</p>
	灰色かび病	5月中旬(開花直前)～6月下旬(開花直後)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発病花穂は除去する。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 ゲッター水和剤⊕● 1000～1500倍 ストロビードライフロアブル 2000～3000倍 ロブラール水和剤● 1000～1500倍
褐斑病	休眠期	<ul style="list-style-type: none"> ・落葉は集め処分する。 	<p>5月頃雨が多いと多発する。デラウェア、キャンベル・アーリーなどの品種は弱い。</p>
	5月上旬～中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・次の薬剤のいずれかを散布する。 トップジンM水和剤⊕ 1000～2000倍 アミスター10フロアブル 1000倍 	
黒とう病	休眠期(発芽前)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 枝、まきひげは除去する。 2. 発病新梢は除去する。 3. 次の薬剤のいずれかを散布する。 デランフロアブル 200倍 ベフラン液剤25 250倍 ベンレート水和剤⊕● 200～500倍 	<p>春先天候不順の年に発生多い。 一般にヨーロッパ系の品種が弱く、アメリカ系の品種は強い。</p> <p>●耐性菌を生じやすいので連用しない。</p>
	5月上旬～6月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター10フロアブル 1000倍 アリエッティC水和剤 400～800倍 ジマンダイセン水和剤 1000倍 オーシャイン水和剤● 2000～3000倍 マネージDF● 4000～6000倍 ロブラール水和剤● 1000倍 	<p>新梢が30～40cmくらいになった頃から薬剤散布を開始する。</p> <p>●耐性菌を生じやすいので連用しない。</p>

ブドウ

ブドウ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
晩腐病	休眠期	1. 枝、まきひげは除去する。 2. 発病新梢は除去する。 3. 次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤 250～400倍	6月下旬から収穫期 にかけ雨が 多い年に多 発する。 幼果期以降の散布は 果実の汚れに注意す る。
	6月上旬～ 9月中旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター10フロアブル 1000倍 アリエッティC水和剤 400～600倍 ストロビードライフロアブル 2000～3000倍 トップジンM水和剤㊟● 1000倍 ベンレート水和剤㊿● 2000～3000倍	●耐性菌を生じやすい ので連用しない。 ㊟を使用した場合には 同じ作での㊿は使用し ないこと、その逆も同 様（種子への処理およ び塗布処理を除く）。
さび病		1. 落葉は集め処分する。 2. 発生圃は冬期中に中耕する。	梅雨あけから晴天が 続くと発生しやすい。
	6月上旬～ 9月中旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 バシタック水和剤75 1000倍 ストロビードライフロアブル 3000倍 マネージDF● 4000～6000倍	●耐性菌を生じやすい ので連用しない。
うどんこ病	新梢伸長期 以降	・次の薬剤のいずれかを散布する。 トリフミン水和剤● 2000～3000倍 マネージDF● 4000～6000倍	春と秋に発生しやす い。 ●耐性菌を生じやすい ので連用しない。
ブドウえそ 果病	生育期	・媒介虫であるハモグリダニを防除す る。	発病葉は緑色濃淡が 明瞭なモザイク症状を 現す。
ブドウえそ 果ウイルス (GINV)		・感染拡大を防止するため、感染が 確定した樹は伐採し未感染の苗木 に切り替える。	主に巨峰系のブドウ 品種で発病しやすい。

ブドウ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 スミチオン乳剤#1 1000～2000倍 ダイアジノン水和剤34#2 1000～1500倍	#1大粒種と小粒種では使用時期が異なるので注意すること。 #2大粒種のみ
ブドウネアブラムシ	生育期	1. 抵抗性台木による接木栽培を行う。 2. 次の薬剤を散布する。 モスピラン粒剤(散布) # 30g/m ² (6kg/10a以下)	# 樹冠下または主幹周辺に散布する。
フタテンヒメヨコバイ	5月下旬(開花前)・ 6月上旬(落弁後)	1. 不要な副梢を摘み取り、園の通風と採光をよくする。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン水和剤 1000～2000倍 サンマイル水和剤 1000倍 スミチオン水和剤40#1 800～1000倍 パダンSG水溶剤#2 1500倍 ベストガード水溶剤 1000倍	#1大粒種と小粒種では使用時期が異なるので注意すること。 #2大粒種のみ
カイガラムシ類	3月中旬(発芽前)	・次の薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤* 7～10倍	*落葉果樹での登録商品により登録が異なるので注意。
クワコナカイガラムシ	5月上旬(開花前)	・次の薬剤のいずれかを散布する。 トランスフォームフロアブル#1 1000～2000倍 スミチオン水和剤40#2 800～1200倍 ダイアジノン水和剤34#3 1000～1500倍	#1カイガラムシ類での登録 #2大粒種と小粒種では使用時期が異なるので注意すること。 #3大粒種のみ、若齢幼虫に適用。
チャノキイロアザミウマ	6月上旬～下旬	1. 発生源となるので不要な副梢は早めに剪定する。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオフロアブル#1 1000～2000倍 アドマイヤー顆粒水和剤#2*a 5000～10000倍 コテツフロアブル 2000～4000倍 モスピラン顆粒水溶剤#2 2000～4000倍 ロディー水和剤 2000倍 モベントフロアブル#2 2000倍	チャヤイヌマキなどが寄主植物である。開花前および落弁後約1か月間の防除が重要。 #1大粒種のみ #2アザミウマ類での登録 *a露地栽培については発芽期から開花期を除く

ブドウ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アメリカシロヒトリ	生育期	1. 若齢幼虫期には、巣網を作って集団でいるので枝ごと処分する。 2. 幼虫発生期に次の薬剤を散布する。 アディオン水和剤 2000倍	幼虫は5月下旬～6月下旬と8月中旬～9月中旬の年2回発生する。
コガネムシ類	7月上旬	1. 成虫の活動が鈍い早朝に棚を揺すって落下した成虫を捕殺する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオンフロアブル#1 1500倍 エクシレルSE 5000倍 スミチオン水和剤40#2 800～1000倍 モスピラン顆粒水溶剤#3 2000～4000倍	#1大粒種のみ #2成虫での登録 大粒種と小粒種では使用時期が異なるので注意すること。 #3成虫での登録
ブドウトラカミキリ	10月下旬～3月中旬(休眠期)	・ 次の薬剤を散布する。 トラサイドA乳剤 200～300倍	山林に接した園で発生が多い。 # 大粒種と小粒種では使用時期が異なるので注意すること。
	10月上旬(成虫発生終期)	1. 剪定枝を放置すると発生源となるので処分する。食入痕を見つけたら幼虫を刺殺する。 2. 次の薬剤を散布する。 スミチオン水和剤40# 800～1000倍	
ハダニ類	生育期	1. 発生源となるので下草管理を徹底する。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アーデントフロアブル 2000倍 サンマイト水和剤 1000～1500倍 ダニトロンフロアブル 1000～2000倍 バロックフロアブル 2000倍 マイトコーネフロアブル 1000～1500倍 モベントフロアブル 2000倍	薬剤抵抗性がつきやすいので同一薬剤の連用をしない。

ブドウ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ブドウハモ グリダニ	3月中旬 (発芽前)	・次の薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤* 7～10倍	*落葉果樹での登録 商品により登録が異なる ので注意。
	生育期	・次の薬剤を散布する。 コテツフロアブル 2000倍 アプロードエースフロアブル 1000倍	
その他の害虫		コウモリガ、果実吸蛾類	